

はじめに

本書第1部は、信仰探求上のある一定の点へ達した境涯に立って、それまでの経過を反省した性格のものであるから。それに対して第2部はそうではなく、基本的には先のある一定の点からさらに先へと進みつつある心境の中にあって記したものである。したがって、それら双方はかなり資質の異なったものが組み合わせられていると判断している。

だが異なった資質とはいえまったくの別物なのではない。いわば前後という関係にあって相互に深い繋がりを有している。もっともその事情が本書での表現の字面の上で見られるわけではない。しかし、第1部に記した如き内容の事情があったればこそ、第2部に記したような内実へ達した点において、第1部と極めて深い関係を有する。

天地人 — 世からイエス固着へ —

目 次

はじめに i

第1部 世にありて

第1章 孤独と実践 3

第2章 世に属さぬ者とは 23

第3章 救われた集団 41

第4章 全方位展開 71

第5章 狭き門 103

第2部 「天地」へ向けて

第1章 十字架を負う意味 125

第2章 世と霊 149

第3章 良心と終末 165

あとがき 195